



函館●

函館 ポートガイド

Hakodate Port Guide



函館全景

シャトルバスの運行

未定

帰船時間（自由行動の方々）

未定

観光情報は、こちら！

函館市観光コンベンション部

電話0138-21-3323

「はこぶら」

URL : <http://www.hakobura.jp>

船舶代理店

共栄運輸

電話0138-42-4121

函館港は、古くから天然の良港として知られ、江戸時代には北前船の寄港地として発展するなど、北海道と本州を結ぶ海の玄関口としての役割を担ってきました。

1854年にペリーが初めて来航した際は、その入港のしやすさや安全性、美しい景観を絶賛し、「東洋のジブラルタル」と称したほどでした。

その後、1859年に横浜、長崎とともに日本で最初の国際貿易港として門戸を開いてから、諸外国との交流の中で、その文化を吸収し、発展を続けてきました。現在でも異国情緒あふれる街並みが広がり、元町やベイエリアを中心に、魅力的な名所が多数あります。

世界的な旅行ガイド「ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャポン」においても、「函館山からの眺望」が最高ランクの三ツ星の評価を得たほか、五稜郭跡や旧函館区公会堂など、街全体で21カ所に星を獲得しており、多くの観光資源を有する街です。これらの見どころは、コンパクトに

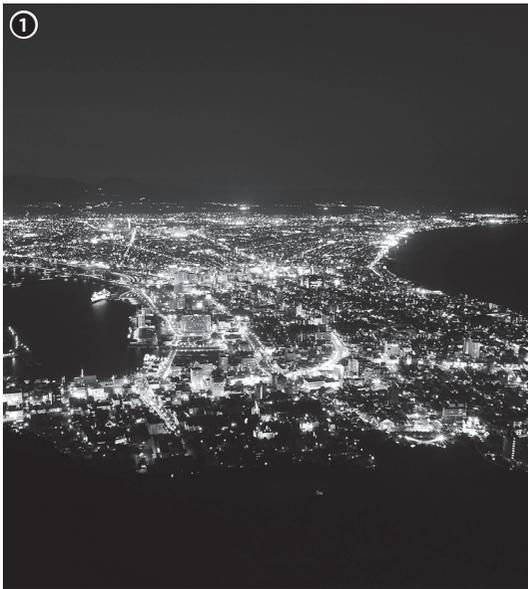
まとまっており、市電を利用して街歩きを楽しみながら自分のペースでゆっくり見て回れます。湯の川まで足を延ばせば、温泉につかって旅の疲れを癒やすこともできます。

また、近郊地域に目を向けると、大沼国定公園は湖、森、山など北海道の雄大な自然にあふれ、トレッキングやサイクリング、ボートなど、新鮮な空気を吸いながら体をリフレッシュすることができます。

江差や福島などは、古くから漁業の街として栄え、また北海道と本州の交流の拠点として発展してきました。きっと道南地方独自の歴史や文化を感じていただけることでしょう。

これに加え、旅の楽しみの一つである「食」についても、新鮮な魚介類や農作物が豊富にそろい、季節ごとの味覚を存分にご堪能いただくことができます。

函館は人それぞれの希望にあった楽しみ方ができる、魅力に満ちた街です。



1 函館山展望台

函館市とその近郊を一望できる展望台。標高334mの函館山山頂からの眺めは、「世界三大夜景」の一つと称され、眼下には宝石箱をひっくり返したかのような煌びやかな夜の絶景が広がり、感動を与えてくれます。

125人乗りのゴンドラに乗れば、山頂まで一気に3分で到着。展望台レストランで景色を見ながらお食事を楽しむこともできます。

もちろん、昼の函館山もお勧め。コンディションに合わせて、幾多ある登山コースからチョイスし登山を楽しむことも。心地よい森林浴で、全身をリフレッシュできます。

2 函館朝市

約280件の店舗が軒を連ねる函館朝市は、海産物をはじめ野菜、果物、お菓子、珍味など、函館のありとあらゆる味覚が集まる巨大な食のワンダーランド。函館駅から徒歩1分でアクセスできる、函館旅行には外せない観光スポットです。

函館朝市のルーツは、終戦直後に近隣町村の農家が野菜や果物を持ち込んで行った函館駅前での立ち売りですが、いまでは現在地に落ち着き、以降、函館の食

の一大流通拠点として栄えてきました。

「まずいモノはお客さんに出したくない」「うまい! と思ってもらいたい」との心意気が伝わってくるお店ばかりで、何でも聞いてみると親切に教えてくれるはず。店員さんとの会話も楽しみの一つです。

3 五稜郭

徳川幕府の命を受けた蘭学者、武田斐三郎が設計を手掛け、1864(元治元)年に完成した国内初の西洋式城郭で、国の特別史跡にも指定されている星形城塞。

戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争の舞台となり、榎本武揚、土方歳三らが率いる新撰組にとって最後の砦となったのは、よく知られています。一般的には五稜郭公園の名で親しまれ、多くの木々と堀に囲まれた星型の城郭は、夏は緑色、秋は赤黄色、冬は白色、そして5月の大型連休ごろには桜色へと装いを変えます。

2010年、箱館奉行所も復元オープンしました。

4 元町地区

函館らしい異国情緒を感じさせる街並みの残る地域。

函館と切っても切り離せない「坂」を巡るのも楽しみの一つ。函館山麓には、八幡坂、二十間坂、弥生坂など名前のついた19の坂があり、歴史を感じさせる建物を眺めながらの散歩ルートもいろいろあります。視線の上には函館山、下には港……。坂は函館らしい風景を演出する名脇役です。

また、市内には歴史的建物が点在しています。基坂周辺には、旧函館区公会堂などハイカラ函館を象徴する洋館。大三坂上には、クラシックな教会群。市電通りには、コンクリート造りの重厚なビル。1階が和風、2階が洋風の和洋折衷の家も、函館ならではのものです。

5 金森赤レンガ倉庫群

ベイエリアに建つ函館の代表的な観光スポット。1909(明治40)年に建築され、どこかロマンチックな風情を感じさせてくれる、シンボリックな建物となっています。現在は飲食店や土産物店が並ぶ観光スポットです。

大火による焼失を受け、不燃質の倉庫として再建されたのが現在の建物です。その後、飲食店や土産物店が入居する複合施設へと姿を変えましたが、数棟は現役の営業倉庫として活躍を続けています。

足を延ばして



6 大沼国定公園

豊かな自然と雄大な景色が広がり、多くの行楽客でにぎわいます。「駒ヶ岳」と、道南で唯一の国定公園となっており、また、新日本三景の一つにも選ばれています。



7 近郊の街

函館周辺には、江差追分の江差町、千代の山と千代の富士を輩出した、「横綱の里」として知られる福島町など道南独自の歴史や文化を感じさせる街がたくさんあります。

港までの所要時間

JR「五稜郭駅」より	■タクシーで約10分
JR「函館駅」より	■タクシーで約20分
「函館空港」より	■タクシーで約45分

ふ頭所在地

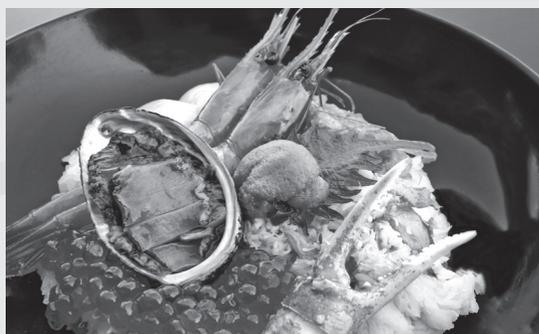
〒041-0821 函館市港町2-14-53



函館

おすすめグルメガイド

函館は、三方を海に囲まれ、日本海の暖流と太平洋の寒流が流れ込む好漁場に恵まれています。獲れたてコリコリ食感の「真イカ」、旨味たっぷりの「戸井マグロ」など、美味しい近海ものが目白押し。また、ハイカラ文化がいち早く入ってきた函館らしく、地元食材を生かした洋食店も充実。あっさりスープのシンプルな塩ラーメンも、お忘れなく。



海鮮丼

函館に来たからには、あふれんばかりに新鮮なネタののった海鮮丼を一度は食べてみたいというのが、みんなの夢では？ 自慢のネタが色とりどりに盛り付けられ、見た目の美しさもワクワクさせてくれます。特に人気のお食事スポットは、海鮮丼を提供する食堂が軒を並べる、その名も「函館朝市どんぶり横丁市場」。



塩ラーメン

函館の人気グルメの一つ、塩ラーメン。初めて登場したのは明治17年で、日本最初のラーメンは函館で食べられたのではないともいわれています。美味しさの特徴は、すっきりと透明なスープ。さっぱりとしている中に、深い旨みが潜んでいます。飽きることなく最後まで飲み干してしまう、という人が多いのもうなずけず。



洋食

日本初の国際貿易港として、古くから諸外国との交流の窓口だった函館には、その当時から洋食文化が根付いています。明治時代から続く老舗レストランや、大正時代に本場ドイツから受け継がれた製法を守り続けるハム、ソーセージのお店など、歴史ある名店から、地元の旬の食材にこだわり抜いた気鋭の新しい店まで、洋食の奥深さを感じることができます。